

福島県特別支援教育振興会

いわき支部

会報

第 33 号

発行 者
福島県特別支援教育振興会
いわき支部長 大谷 明事務局
福島県立平支援学校
いわき市平上平窪羽黒40-45
〒970 TEL(0246)24-2501
-8001 FAX(0246)23-5135
ホームページ <http://sep-iwaki.com/>

ごあいさつ

福島県特別支援教育振興会 いわき支部長 大谷 明

令和 5 年も年の瀬が近づきコロナ禍もインフルエンザ拡大を潜ませ伴いながら、皆様ご自身や子供達の健康等を守りながら日々を送っているものと存じ上げます。しかし学校や職場等で児童生徒等の集合同等のマスク着用や、自己規制で場面判断して学習・家庭・諸会合・遊びや通院等でのお過ごしになられている事と思います。どうか無事安全に新年をお迎えになられるようご祈念申し上げます（秀句あり = “ばんだいのタガこそみがけ年の暮れ” 久保田万太郎）。

ところで振興会に関する重要な動きが本県全体の振興会及び関係組織に生じております。そこで関係機関が作成・配付されて指摘しているものを使って何が問題であり課題であるかと、その幾つかを順不同で列挙してみました。会員各位には以下の諸点にお目通し願いますとともにご意見等を本会いわき支部事務局（平支援学校あて）へお寄せいただければありがたいと思います。

- ★振興会の事業・活動等が定型化しマンネリから脱却できないでいる事
- ★地域で共に学び共に生きると云う事の意味・その実践・連携の在り方等
- ★振興会の事業執行での具体的な展開での予算、決算で問題はないか。
- ★現況を見ると本年の 12 月頃には臨時的な役員会や総会の開催が考えられる。
- ★本県には振興会本部事務局と県内六支部があるが、その連携や交流等が低迷していると思われ、今後の会の在り方を真剣に考えなければならない時期になってきて、本会の目的である「特別支援学校で学ぶ子どもの教育充実・発展」は、特別支援学校 PTA 連合会、特別支援学校校長会、各校児童生徒後援会等でも展開され、体制的に見て本会の役割を検討していく必要があるとも言える。
- ★本会で従前からある会員に関する課題です。それは会員の多数が特別支援学校の児童生徒の保護者とそこに勤務する教職員によって支えられており、その一方では一般市民や企業の会員が極めて少ないことです。多様な特別支援学校の関係団体・組織等が多い中で会費提出の二重負担であること、市民への特別支援教育への理解と協賛・調整等が低調である事を示し、改善を図らなければならない課題であるとしています。

以上、振興会の活性化・在り方の課題等を並べてみました。ご参照していただければありがたいと思います。（注：12 月に臨時役員会・総会を開く予定です。）



聴覚支援学校平校 七夕お楽しみ会での「たなばたのうた」の活動

各学校の紹介

いわき支援学校

本校は、いわき市平上神谷地区に位置し、知的障がいのある児童生徒が学ぶ通学制の特別支援学校です。小学部103名、中学部51名、高等部98名の児童生徒が在籍し、今年度は、創立41年目を迎えます。「自ら考え学ぶ人」「心ゆたかな人」「じょうぶな人」の教育目標のもと、児童生徒一人一人の能力・特性に応じ、自立と社会参加を目指して、授業づくりや学校行事、体験活動の充実に取り組んでいます。また、分校のくぼた校とも連携を図りながら、教育活動を進めています。

本年度は、新型コロナウイルスの影響が少しずつ緩和され、のびのびと充実した学習活動やPTA活動を行うことができるようになりました。

小・中学部は10月21日、高等部は10月28日に「輝け！虹のように美しく！みんな笑顔の風雲2023」というテーマを掲げ、「風と雲のまつり」を行いました。

小学部は、学年ごとにステージ発表を行いました。低学年は大きな舞台やお客様にドキドキしながらも、教師と一緒に自分の発表を頑張っていました。中学年は、友達と気持ちを合わせたり、自分なりの思いをもった表現をしたりすることができ、高学年は、これまでの学習成果を堂々とステージ一杯に表現することができました。日々の学習や発表に向けての学習を積み重ね、学年が上がるごとに成長が感じられる元気いっぱいの発表でした。

中学部は、主に作業製品販売を行いました。ステージ上で、紙工班、クラフト班、家庭班の代表者が作業学習や作業製品販売についての説明を行い、販売活動では、各班の生徒たちが品出しや会計、袋詰めなど、仕事を分担して自分ができる活動に一生懸命取り組みました。今年度も家族限定としましたが、新型コロナ以前のような販売活動を行うことができ、多くの保護者の皆様にご来場いただき、笑顔いっぱいの有意義な販売活動となりました。

高等部では、「風と雲のまつり実行委員会」の生徒達を中心となってオープニングやフィナーレを行うなど、企画運営を行いました。ステージ発表と作業学習製品の販売や実演を行いました。ステージ発表では、総合的な探究の時間で調べたことについての発表や「よさこい」など、学年ごとの発表やフラグダンス部の華麗なダンスが披露されました。各作業班の実演では、日々の作業学習の成果を発表することができました。

今年度は来場者が増え、にぎやかな「風と雲のまつり」になりました。

本校ではキャリア教育の充実に努め、各学部で身につけさせたい力を整理し小学部段階から指導を行っています。小学部段階では、身近な教師や友達に思いを伝えることや一緒に活動すること、身辺処理、規則正しい生活や楽しく体を動かすこと、やろうとする気持ちや人の役に立つ経験など、日々の生活の中で、できることを増やすことができるよう学習しています。中学部や高等部では、地域の様々な企業や福祉事業所の御協力を得ながら、校外での産業現場等における実習を行い、将来の生活に向け、仕事への考え方や取り組み方、そして地域の方々との共働生活について学んでいます。

今年度も、本会からの助成金は、各学部の教材・教具の充実や芸術鑑賞会に活用させていただいています。いわき支部の皆様、本当にありがとうございます。



いわき支援学校くぼた校

いわき支援学校くぼた校（以下、「くぼた校」という）は、東北及び県内で初めて高等学校内（勿来高等学校内）に設置された高等部のみの特別支援学校（知的障がい）として開校し、今年度で9年目となりました。福島県が目指す「地域で共に学び共に生きる教育」の推進に向けて、勿来高等学校や地域の皆様からの御協力や御支援をいただきながら、日々の教育活動を行っています。

くぼた校では、10月7日（土）に福島市のとうほう・みんなのスタジアム（あづま総合運動公園）を会場として開催となった「第22回福島県特別支援学校スポーツ大会」に学校行事として参加しました。大会に向けて、2学期から本格的に練習を始め、各種目に分かれて継続して練習を行いました。また、今年度もクレハ株式会社のグラウンドをお借りしての練習会を実施するなど、大会に向けて練習を重ねてきました。大会当日は今年度から制限を設けない形での開催となり、久しぶりに友達の声援を受けて走ることができました。これまでの練習の成果を発揮し、くぼた校は陸上競技において女子ソフトボール投での大会新記録を含む5種目での優勝、フライングディスク競技の個人アキュラシー5m競技において2名の優勝をはじめとして、両競技を合わせて計16種目での入賞を果たしました。また、多くの生徒が自己記録を更新またはそれに近い記録を残したり、くぼた校のこれまでの歴代記録を更新したりするなどの結果を残すことができました。

今年度は「第22回福島県特別支援学校スポーツ大会」に係る大型貸切バスの代金として、本会からの助成金を当てさせていただきました。生徒たちは、この大会のためにこれまで練習を重ねて臨んでいたこともあり、良い思い出となったようです。いわき支部の皆様御協力や御支援に改めて感謝申し上げます。今後とも様々な場面で御支援をいただければと思います。



平支援学校

本校は、平上平窪地区にある、肢体不自由のある児童生徒が通う特別支援学校です。現在、小学部 28 名、中学部 28 名、高等部 28 名、計 84 名が在籍し、保護者の送迎や公共交通機関・スクールバス等を利用して自宅から通学する児童生徒、寄宿舎を利用して通学する児童生徒、隣接する福島整肢療護園から通学する児童生徒がいます。また、市内小名浜野田にある国立病院機構いわき病院内の「病院訪問学級」や家庭に教師を派遣して授業を行う「家庭訪問学級」など、各々の状況に応じた形態での学習を通して『明るく 正しく たくましく』の学校目標のもと、個々の能力や特性に応じながら卒業後の自立と社会参加に向け、日々学習活動に励んでいます。また、校内において7名の看護師が配置され、経管栄養や痰の吸引等の、医療的なケアを必要とする児童生徒が安心して学校生活を送れるよう、安全の確保を徹底しています。

今年度も新型コロナウイルス感染防止のため、対策を施しながら校外へ出かける活動を実施いたしました。小学部では、5年ぶりの宿泊学習を校内で実施しました。食事に必要な食材の買い物や調理、布団の準備や片付け、レクリエーション活動などみんなで協力し合いながら行うことができました。中学部では、富岡支援学校との交流をはじめて実施し、互いの顔を見ながら活動することができました。高等部では、ふたば未来学園高等学校、いわき支援学校、いわき総合高等学校との交流を実施しました。修学旅行は関東方面で実施し、スカイツリーやディズニースーに行き、楽しい思い出を作ることができました。また、作業技能大会や特別支援学校スポーツ大会などへの参加を通して生徒の視野を広げていくことを心がけ、直に体験する機会を作りました。

本校では本会からの助成金を災害時備蓄品、高等部特別支援学校スポーツ大会参加のための交通費、卒業式装飾の花代に使わせていただきました。安心・安全、充実した学習活動のために有意義に使わせていただいております。



聴覚支援学校平校

聴覚支援学校平校は、いわき市平馬目地区にあり、浜通り地区唯一の聴覚障がいのある幼児児童が通学する特別支援学校です。平校は今年で創立 117 年目を迎えました。幼稚部と小学部が設置されており、今年度は幼稚部 5 名、小学部 6 名の計 11 名が学んでいます。平校では、学力・言語力、そして生きる力の育成を目指し、日々の教育活動に取り組んでおります。また、校内には地域支援センター「みみらんど・いわき」があり、0歳からの教育相談、地域の学校等への出かける支援、学習会なども行っています。

特別支援教育振興会いわき支部の助成金を活用した行事の「平ふくろう祭」について紹介します。

今年度は、11月4日(土)に、「スマイル全開!燃える心でかがやく未来をつかめ」のテーマのもとに学部ごとに日頃の学習の成果を発表しました。

幼稚部は、劇「うらしまたろう」の発表を行いました。子どもたちは、「うらしまたろう」の物語に親しみながら、台詞や動き、声の大きさ、表情にも気をつけて練習を重ねてきました。また、劇で使うバック幕や小道具も5名が力を合わせて作成しました。当日は、衣装を着てそれぞれの役になりきった子どもたちの一生懸命な演技に、会場に集まったお客様からたくさんの拍手が送られました。小学部は、児童が話し合いを行い「秋まつり」を開催しました。これまでの学習の成果をお客様に発表するため、学級ごとに屋台を制作しました。当日は、初めに今までの学習内容についてプレゼンテーションをしました。その後は、屋台を開き、映画館や防災ワークショップ、射的、カードゲーム、玉入れなど、多くの方々と交流しながら学習の成果を発表することができました。

会員の皆様には平校の教育活動の充実のために温かい御支援をいただき、感謝申し上げます。今後とも、どうぞよろしくお願い致します。



温かいご支援をいただき、ありがとうございました。

令和5年度 一般会計歳入歳出予算書

歳入総額 1,373,857 円
歳出総額 1,373,857 円
差引残高 0 円

1 歳入の部 1,373,857円

Table with 7 columns: 款, 項, 目, 本年度予算額, 前年度予算額, 比較増減, 摘要. Rows include 会費収入, 積立金取崩, 諸収入, 繰越金取入, and 合計.

2 歳出の部 1,373,857円

Table with 7 columns: 款, 項, 目, 本年度予算額, 前年度予算額, 比較増減, 摘要. Rows include 会議費, 負担金, 補助及び交付, 事務費, 積立金, 予備費, and 合計.

- 3 差引残高 0円
4 支部長の承認を得て科目間の流用を認める。
5 特別会計残高 100,000円

令和5年度 福島県特別支援教育振興会 いわき支部役員名簿

- 【顧問】 長谷川浩一 青木 稔
渡辺 敬夫 小野 哲司
【支部長】 大谷 明
【副支部長】 塩 俊昭 矢吹 美良
齋藤 裕美
【監事】 新妻 由美 富岡幸夕里
【理事】 (平方部) 小野寺典子
(小川・川前方部) 鈴木 茂信
(社団法人いわき市医師会)
(福島県立いわき支援学校) 菅野美恵子
(福島県立いわき支援学校くぼた校)
加藤 賢一 伊藤 恵一
(福島県立聴覚支援学校平校)
大和田 浩
(福島県立平支援学校)
渡部 孝男

児童生徒作品紹介

いわき支援学校



「モダンテクニックを使って 気持ちを表現しよう」 高等部1年 宗方まどか



「モダンテクニックを使って 気持ちを表現しよう」 高等部1年 上野 剛

平支援学校

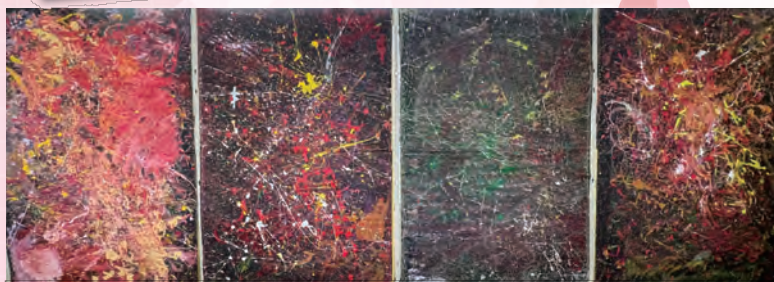


仮面をつくろう 「仮面うさぎレッド」 中学部2年 古舘 里彩



空想の動物をつくろう 「ねこのプーさん」 中学部1年 中西 華実

いわき支援学校くぼた校・勿来高校



「気炎万丈& Together As One, Be Happy」 両校の全校生徒

聴覚支援学校平校



「ハロウィン」 小学部1年 横山 瑠咲